

※実務経験のある教員による授業科目：単位数 2

授業概要

実際に児童福祉施設（保育所を除く）や障害者支援施設において、利用者とかかわり、生活をともにする体験の中で、社会福祉施設の機能や利用者への適切なかかわりについて理解する。社会福祉施設・機関で利用者や利用者家族へ相談援助の実務経験がある教員を中心に行った事前指導にもとづき、利用者の背景や置かれている状況、生活課題を把握、理解し、支援者としてどのようにかかわるか、自身で考え行動することが求められる。また、社会福祉施設では保育士以外にも多様な専門職が勤務しており、そうした他の専門職の職務を理解することにより、保育士の業務や役割についても理解を深めることとする。

実習中は、実習施設の職員の指導に基づき利用者の理解を深めながら、支援を行う。

日々の学びについては実習日誌に記録し、指導者の指示を受けることとする。

授業計画

- (1) 実習期間 春期…8月・9月の間の2週間、秋期…2月・3月の間の2週間
(実習施設により日程が異なる。)
- (2) 実習時間…1日8時間(休憩時間を除く)を上限とし、12日間、90時間を確保する。
- (3) 実習内容…観察・参加実習を中心とするが、実習園の指示により部分実習・責任実習を行う場合もある。

到達目標

- (1) 利用者や職員と生活を共にすることによって、利用者の背景や生活課題を理解することができる。
- (2) 人権の尊重、自立支援、利用者の自己決定、秘密保持等をふまえた、利用者のとのかかわりを理解することができる。
- (3) 利用者と積極的に関わるとともに、職員の行動・実践から積極的に学びとることができる。
- (4) 利用者の様子、自身の支援等を丁寧に記録し、適切な実習記録をまとめることができる。
- (5) 大学で学んだ知識や技術を実習の場で総合的に捉え直し、新たな学習課題の発見と学習意欲に結びつけていくことができる。

履修上の注意

- (1) 保育実習Ⅱを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
 - ① 実習派遣条件科目の単位を修得していること。
 - ② 「保育実習指導Ⅱ」の授業に原則として全出席し、授業担当者の指示を遵守していること。
 - ③ 保育実習に必要な学内のガイダンスに出席し、すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること。
- (2) 実習中の欠席は特別の場合を除き認められない。認められた場合でも、実習の延長が必要となる。

予習・復習

- (1) 予習
 - ① 実習開始前にオリエンテーションを受け、実習施設の概要理解に努める。
 - ② 保育実習事前事後指導Ⅱの授業を受け、準備学習をする。実習の目標を定め、実習日誌に記載する。
 - ③ 実習中は次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める。
- (2) 復習

実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

評価方法

実習施設による評価（実習態度 施設理解 利用者理解等）80%、実習日誌の評価 20%
実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

- ・教科書名：保育士をめざす人のための施設実習ガイド
- ・著者名：河合高鋭・石山直樹
- ・出版社名：みらい
- ・出版年（ISBN）：2020年（9784860155032）